

温暖化防止

ストリート

街角

道



第13号

2005.5.1

「温暖化防止・ストリート」の由来

このストリート（街角）で温暖化防止について語り、情報や人の環が広がっていくことが、温暖化防止への道（ストリート）につながることを願っています。一緒に歩いてみませんか。

気候ネットワーク

～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

目次

- ・用語解説「エネルギー起源CO₂」… P.1
- ・団体紹介「環境市民」…………… P.2
- ・温暖化の影響・こんなことできる… P.3
- ・大省プロの紹介・Webサイト紹介・ボランティアの声…………… P.4

気候ネットワークの会員同士のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止・ストリート」を発行しています。

エネルギー起源CO₂

地球温暖化に関する用語解説

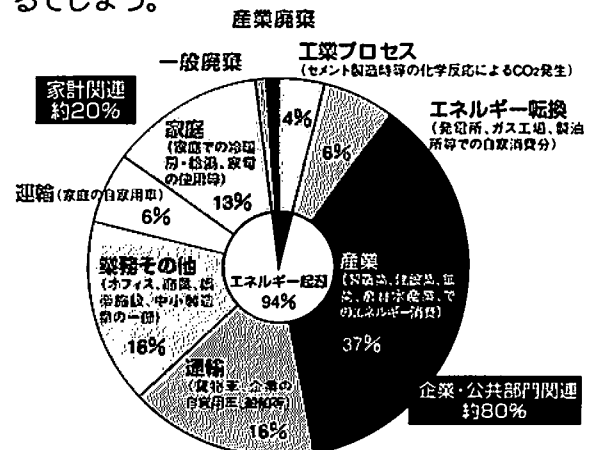
ひとことで言うと：「化石燃料の燃焼にともなって排出されるCO₂」

京都議定書目標達成計画では「エネルギー起源CO₂」の削減目標は基準年総排出量比+0.6%と定められました。

このエネルギー起源CO₂は、右グラフのエネルギー転換・産業・運輸・業務その他・家庭の部分にあたり、国内全体の排出量の90%以上を占めています。その他の、セメントの製造時に発生する「工業プロセス」部門、プラスチックや廃油の焼却にともなう「廃棄物」部門が「非エネルギー起源CO₂」です。

目標達成計画では6%の目標の内、その大半の-5.5%を森林吸収と京都メカニズムに依存し、非エネルギー起源CO₂、メタン、一酸化二窒素で-1.2%、代替フロン等3ガス（HFC・PFC・SF₆）+0.1%、肝心のエネルギー起源CO₂は+0.6%と、

実質的な削減をとまなわれないものになってしまっています。この部分で確実に削減できる政策・措置を導入することが温暖化防止の基本と言えるでしょう。



紹介者

今回は、京都で活動している、『環境市民』の紹介です。事務局長の堀さんから紹介していただきました。



堀 孝弘さん

環境市民は、「持続可能で豊かな社会を地域から市民の実践により築く」を活動目的に、1992年設立されました。問題告発や反対運動ではなく「課題解決型活動」を大切にしています。事務局は京都市。滋賀、愛知にも地域組織があります。「持続可能な社会」に至るには、自治体の政策、事業活動、市民の暮らし、教育、これらいずれも環境配慮したものに変わっていく必要があります。そのため総合的な活動を展開し、地域実践の中から活動モデルを生み出しています。

具体的活動として、全国の市町村を対象にした「日本の環境首都コンテスト」を2001年度から実施、また、自治体首長や環境担当者を対象にした「環境自治体をつくる自治体首長と環境NGOの戦略会議」などを実施しています。

事業活動への動きかけとして、全国のグリーン購入ネットワークの設立に参画し、その運営と発展に協力してきました。2004年度からは京都グリーン購入ネットワークの事務局を担っています。他、CSRセミナーなどを自主開催しています。

ライフスタイルへの動きかけでは、設立以来、グリーンコンシューマーの考えを広める活動を展開してきて、京都市内の全スーパー等の環境対策を調査した「グリーンコンシューマーガイド」の発行、および他地域への普及、全国のスーパー等の環境対策を調べ評価した全国版ガイドを出版してきました（全国の市民団体と共同）。2004年これらの成果がグリーン購入大賞「環境大臣賞」として評価されま

気候ネットワークの団体会員の紹介です。

した。他にも、エコリフォームの実践セミナーやガイドブックの発行、京都近郊の里山を借りた自然活動などを実施しています。

もうひとつ環境市民が大切にしているのは「おもしろさ」。京都での2.16議定書発効パレードではとても目立ってしまいました。でも、誰よりも大きな声をはりあげていたと思います（これも地域実践…?）。

気候ネットワークとの関係は深いものがあります。前身の気候フォーラムの京都事務局は、発足時環境市民の事務局で同居していました。現事務所への引っ越しも環境市民のスタッフが協力しています。環境市民の現代表権本育生は気候フォーラム事務局次長でしたし、気候ネットワークの現代表浅岡美恵さんは、かつて環境市民の代表を務めてくださっていました。

事業面では、自然エネルギー学校・京都の共催や省エネラベル普及などで協働しています。2004年度は岡山県地球温暖化防止活動推進センター主催の子どもエコフェスタでの協働もありました。これからも様々な場面で協力していきたいと思います。



京都議定書発効記念パレードの様子

今回の団体は

特定非営利活動法人

環境市民

環境市民

〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下 呉波ビル3階

TEL : 075-211-3521 FAX : 075-211-3531 E-mail : life@kankyoshimin.org URL : http://www.kankyoshimin.org

世界各地の温暖化の影響

世界・日本各地で見られる、温暖化の兆候や影響に関する情報を掲載していきます。

予想以上の早さで進行する温暖化～溶け出す氷河編～

温暖化が予想以上の早さで進んでいます。北極圏の地表の平均温度は10年間で0.5℃以上上昇し、北極海を被う氷の面積は9%も後退しました。特に過去3年間（2002～2004）の夏場の被覆面積は観測史上最小を記録しています。北極海は温暖化の影響を受けやすいこともあり、最近の氷の縮小傾向から、今世紀中には夏場の氷が完全消滅する恐れもあると指摘されています。

また、「南極大陸の氷は従来予測されていたよりも速

いペースで解け出している」、「キリマンジャロの氷冠は、2020年までに消滅すると予想されていたところ、航空写真ですてにほとんど消滅してしまったことが確認された」との報道がありました。

科学者の間でも、温暖化がこれまで想定していた以上のスピードで進んでいると認識されてきています。

Earth Policy Institute のHPデータから下のようによまとめてみました。

アラスカ

1990年代半ば以降、氷河が毎年1.8m 薄くなっている。これは、その前の40年間より3倍以上の早さである

グリーンランド

1992年～2002年の間に融解した地域が17% 広がった

北極海

1978年から2003年の間に、氷の地域が9% (10年毎)減少した

西ヨーロッパ

1980年から2000年の間に、アルプスの氷河が毎年65cm減少している

キリマンジャロ

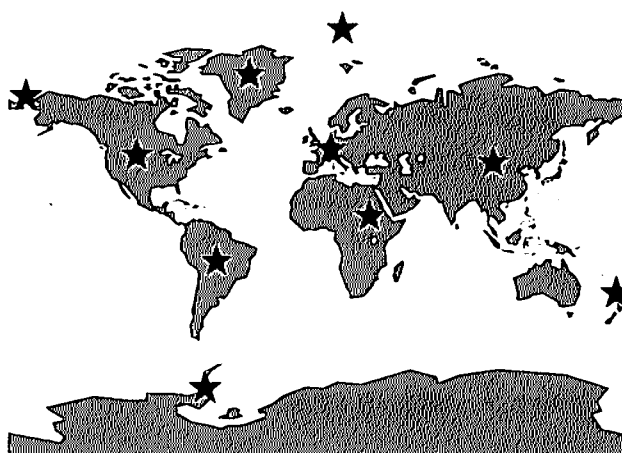
氷冠が前世紀中に80%縮小してしまった

ロッキー山脈

1910年から、2/3以上の氷河と75%以上の氷河地帯が消滅した

パタゴニア

1968年から2000年の間に、海面を毎年0.042mm上昇させるのと同じ量の氷が融けた



テンサン山脈

1955年以降、氷河が30%縮小した

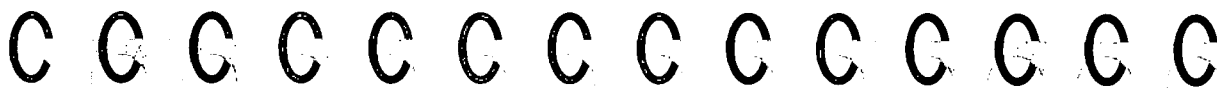
ニュージーランド

氷河の後退によって19世紀半ばから1/4の氷河地域が失われた

南極

1980年以降、毎年300km²の氷床が後退し、溶け出している

(http://www.earth-policy.org/Indicators/lce/lce_data.htm より作成)



このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」できる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

今回のテーマは『食にかかるエネルギー』

食品にも、つくるとき、運ぶときなどにエネルギーがかかっています。今回は、温暖化防止の視点で食について考えました。



温暖化防止のヒント

イチゴはちょうど今ごろ（3～5月）が旬なのですが、最近では冬場に出はじめます。そのために大量のエネルギーが使用され、温暖化の原因ともなっています。トマトやキュウリは本来は夏の野菜ですが、これらの食材が一年中いつでも手に入るように、ビニールハウスでエネルギーを使って加温し栽培されています。ハウス栽培と露地栽培のエネルギーを比較すると、きゅうりで約8倍、トマトは約10倍、ピーマンは約30倍にもなります。魚も同様に、養殖の魚には大量のエネルギーが使われます。

つまり、旬の食材を選ぶことは、栄養価の面からだけでなく、温暖化防止の視点からも効果的な取り組みなのです。

また、食材を選ぶときのもう一つの基準として、生産地があります。消費地から遠方で栽培された食材を輸送するためにもエネルギーが使われています。温暖化防止のためには、できるだけ地産の食材を選ぶことが大切です。

「旬」「地産」をキーワードに、地球にも健康にも美味しい暮らしをはじめましょう！

参考：「上手にいただきます 食の省エネBOOK」財団法人省エネルギーセンター

Action

このコーナーでは、気候ネットワークのプロジェクトや研究会、キャンペーンなどの紹介をしています。

気候ネットワークの活動紹介



京都大学特設会場での展示の様子

「大学・省エネルギー製品 普及・促進プロジェクト」

昨年度から、一人暮らしの大学生を対象に省エネルギー製品の普及促進をはかる取り組みをはじめています。このプロジェクトは、大学生ボランティアを中心に、京都の大学生協と協働で、2月から4月頃までの入学シーズンにあわせて大学生協の特設展示会場などで省エネ家電をPRするキャンペーンを展開しています。2004年度は京都大学、同志社大学、龍谷大学の大学生協と連携して実施しました。また新入生向けの案内に省エネ製品の購入を薦めるチラシを同封して送っています。

大学生の一人暮らしでは、年間の電力消費量の実に半分以上を冷蔵庫が占めています。また、省エネ型製品とそうでないものとは電力消費量が大きく異なるため、入学時の冷蔵庫選びはその後の省エネの重要なポイントにもなってきます。

このプロジェクトには、小型冷蔵庫の性能向上を大学生協と連携してPRしていくという目的もあります。中型タイプに比べ性能の悪い小型タイプの効率改善をメーカーに促すことにもつながっていきたいと思います。

Web

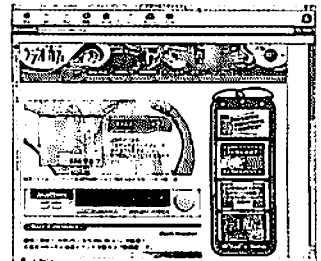
Webサイトの紹介

おすすめWebサイトの紹介です。

京都三条ラジオカフェ (FM 79.7MHz)

「京都三条ラジオカフェ」は日本初のNPO放送局で、市民が放送する市民のラジオ局です。放送番組にも会員制度があり、「番組会員」になれば放送局のメンバーとして番組制作に参加することが出来るようになります。(詳細はラジオカフェHPをご覧ください。)

気候ネットワークでも、「京都発!地球温暖化防止」というタイトルの30分番組を毎週一回、企画・放送しています。パーソナリティは事務局長の田浦とスタッフの豊田が務め、温暖化防止に関するさまざまな話題を取り上げています。皆さんも是非一度お聴き下さい(※)。



<<http://www.radiocafe.jp/>>

(※)ラジオカフェの電波が届く範囲は、京都市内に限られていますが、インターネット放送も行われています。

Volunteer

ボランティアの声



気候ネットワークでは
たくさんのボランティアが
一緒に活動しています。
そのボランティアからのコメント!

京都ボランティア 清水玄太さん

立命館大学大学院社会学研究科1回生の清水です。自然エネルギー普及研究会のコーディネーターをはじめ、自然エネルギー学校・京都や京のアジェンダ21フォーラム自然エネルギーワーキンググループなど自然エネルギーに関する活動に参加しています。活動に参加する中で、普及の仕組みを考えたりするうちに以前より関心が増し、大学院でより専門的に勉強することにしました。大学院で学んだことを活かし、自然エネルギー普及に貢献できればと思っています。

編集後記

4月19日で気候ネットワークは7才の誕生日をむかえました。私がボランティアから関わりだしたのが5年前。7年の中の5年も関わっていることに改めてビックリしています。そろそろ紙面に新しいデザインも取り入れたいと思います。デザイン・DTPに関心のある方がいらしたら、ご連絡ください。気候ネットワーク通信やストリートと一緒につくってみませんか。(おかげ)



特定非営利活動法人 気候ネットワーク

代表: 浅岡美恵 / 副代表: 須田啓海 / 事務局長: 田浦健朗

URL: <http://www.jca.apc.org/kikonet/>

「温暖化防止・ストリート」13号
2005年5月1日発行 (隔月1日発行)
編集・DTP: 岡優子・豊田陽介

京都事務所 (本館)
〒604-8124 京都市中京区高倉通四條上る高倉ビル305
TEL: 075-254-1011 FAX: 075-254-1012
E-mail: kikonet@jca.apc.org

東京事務所
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウッドフィールド2F
TEL: 03-3263-9210 FAX: 03-3263-9463
E-mail: kikotko@jca.apc.org

古紙100%の再生紙に大豆インクを使用し、風力発電による自然エネルギーで印刷しました。



郵便振替口座: 00940-6-79694 (加入者名: 気候ネットワーク)
銀行振込口座: 東京三菱銀行 京都支店 普通口座 1370852 (気候ネットワーク)